

足立区議会平成 23 年災害・オウム対策調査特別委員会
平成 23 年 8 月 30 日の会議録より抜粋

[委員長]日本共産党 さとう純子議員

ただいまより、災害・オウム対策調査特別委員会を開会いたします。

初めに、記録署名員の指名をいたします。

古性委員、針谷委員、よろしく願いいたします。

次に、陳情の審査に入ります。

(1) 受理番号 16 足立区内の小・中学校及び保育所・幼稚園での放射線の測定と測定結果の公表に関する陳情、(2) 受理番号 17 子どもたちを放射性被ばくから守るための陳情、(3) 受理番号 18 放射線量測定と安全対策についての陳情、(4) 受理番号 19 保育園・幼稚園・学校などの放射線量を計測して公表することを求める陳情、以上 4 件を一括議題とします。いずれも、前回は継続審査であります。

最初に、受理番号 17 の陳情について追加署名の提出がありましたので、区議会事務局次長から報告いたします。

区議会事務局次長

受理番号 17 子どもたちを放射性被ばくから守るための陳情につきましては、7 月 6 日付で 30 名の署名の提出があり、合計で 5, 002 名になりましたので、ご報告いたします。

[委員長]日本共産党 さとう純子議員

次に、前回、区議会事務局長の方から陳情者に対してのお話をさせていただくということでしたので、区議会事務局長から報告をお願いいたします。

区議会事務局長

本陳情 4 件につきまして、前回の委員会においてご指示がありまして、陳情者の意向確認を行った結果、受理番号 19 の陳情につきましては、取下げを行う意向があるとの回答をいただいているところでございますが、現在のところまだ取下願を提出されていない状況でございます。

[委員長]日本共産党 さとう純子議員

次に、報告事項①原発事故に伴う放射線対策についてが、陳情と関連しておりますので、執行機関より説明をお願いいたします。

危機管理室長

それでは、報告資料の方をご覧いただきたいと思います。

お開きいただきまして 1 ページ目のところに原発事故に伴う放射線対策についてのご報告を掲載しております。

まず 1 番、これまでの取り組みということで (1) から (6) までございますけれども、特に (2) 番の学校

施設等における空間放射線量の測定を実施いたしまして、これが終了しております。

アのところにありますとおり、8月16日までに終わりました。

そして、中段でございます、このうち0.25マイクロシーベルト以上の14施設については、専門業者による再測定を実施いたしまして、なお下がらない場合には、今後、表層土の交換などの対応を実施するという予定でございます。

また、(4)番、一番下のところにありますが、砂場の検査につきましては、2ページ目のクのところがございますとおり、35カ所、指標値以上のところがございましたので、これについては8月の10日から砂の交換作業を順次実施しておるところでございます。

また、下の方の2番、**国等の動向**でございますけれども、記載のとおりではございますが、(1)番の文科省、あるいは(2)番の厚生労働省、そしてお聞きいただきますと、3ページの(3)の環境省、そして(4)番の農水省、各省庁がそれぞれの角度からの方向性を出す予定になっているということでございます。

問題点・今後の方針でございますけれども、今後、国から放射線対策に係る暫定基準値の見直し、あるいは除染等に係る新たな基準が示される見通しがありますので、その動向を注視していきたいと思っております。

そして、先般、8月26日付で国の原子力災害対策本部というのがございますけれども、ここから除染に関する緊急実施基本方針といったものが決定されたと聞いておりますけれども、これが近く区の方に正式に通達が行われるものと考えております。

4ページと5ページ目、これが測定結果でございます。ご案内いたしますと、横書きになってございますけれども、右から2番目のところの地上5センチと書いてある欄、ここで0.25に達したところについては、何らかの対処を行うという対象施設になります。三つ、今のところは残っているという状況でございます。

また、おめくりいただきますと、5ページ目には砂場の方でございますけれども、やはり右から3番目のところに空間線量という値がありますが、これが0.25以上のところが35カ所を一覧表にしてございます。そして、砂の交換の日程について、決まっているところについては右から2番目のところの欄に日付を記載してございます。

[委員長] 日本共産党 さとう純子議員

それでは質疑に入ります。何か質疑はありませんか。

民主党 長谷川たかこ議員

砂の入替え作業ですけれども、これは撤去されているということなのですが、その撤去した砂はどこに行っているのでしょうか。

学校施設課長

今回、学校の砂場の砂の入替えに関しましては、当該の砂をフレキシブルコンテナという袋に入れまして、校庭の中に別のところに穴を掘りまして、1.2mぐらいの深さでございますけれども、そちらの方に袋詰めした砂を埋めまして、60cm程度の土で覆土をしているという状況でございますので、校庭内ということでございます。

民主党 長谷川たかこ議員

その60cmとか、上に砂をかけるとか、いろいろと工夫してやっていらっしゃるのわかるのですが、その根拠はどこから出されたものなのでしょうか。

学校施設課長

これは23年5月11日付で日本原子力研究開発機構というところから、学校等の校庭、園庭の空間線量低減のための当面の対策に関する検討についてという文書が出てございます。その中で、60cmの厚さで覆土することで放射線量については99.9%遮蔽ができるという文言が出ておりまして、これに従いまして、まとめて地下に集中的に置く方法というのを採用させていただいたということでございます。

【参考】

学校等の校庭・園庭の空間線量低減のための当面の対策に関する検討を公表

2011年5月11日（情報提供：文部科学省）

文部科学省では、「福島県内の学校の校舎・校庭等の利用判断における暫定的考え方についてを示し、今後できる限り、児童生徒等の受ける線量を減らしていくことが適切であるとし、また、校庭・園庭で一定の空間線量率が計測された学校については、学校内外での屋外活動をなるべく制限することが適当としている。

独立行政法人日本原子力研究開発機構が国立大学法人福島大学の協力を得て行った「学校等の校庭・園庭における空間線量低減策の検証に向けた実地調査」の結果について5月11日に「学校等の校庭・園庭の空間線量低減のための当面の対策に関する検討について」として報告している。

<詳細は下記リンク先まで>

◎実地調査を踏まえた学校等の校庭・園庭における空間線量低減策について

http://www.mext.go.jp/a_menu/saigaijohou/syousai/1305946.htm

表-2 土壌中深度方向における線量率の変化
(単位: 深度 cm、線量率 毎時マイクロ Sv)

幼稚園園庭		中学校校庭		幼稚園砂場	
深度	線量率	深度	線量率	深度	線量率
0 (地表)	2.3	0 (地表)	2.0	0 (地表)	1.7
-5	0.3	-3	0.8	-5	0.6
-10	0.22	-5	0.4	-10	0.3
-30	0.15	-10	0.3	-16	0.3
-50	0.10	-21	0.1	-20	0.2
				-25	0.2

(地中天然放射性物質によるバックグラウンドを未補正)

この結果から分かるように、校庭・園庭の稠密な土壌（ローム層）のみならず、密度が低く、深くまで放射性物質が浸透している可能性のあった砂においても、放射性物質が表層 5cm 程度に留まっていることを示している。すなわち、対策を検討すべき放射性物質を含む土壌は表層 5cm 程度までと考えてよい。

2. 3 校庭・園庭の土壌・砂による放射線遮へい効果

上記の深度分布で分かるように、原子力発電所の事故に起因する放射性物質は表層 5cm 程度に留まっており、それ以深の下層土には事故に起因する放射性物質はほとんど含まれていないと考えられる。この表層土からの放射線に対し、本校庭・園庭の下層土がどの程度の遮へい能力を有するかを調べるために、以下のように実地調査を行った。

民主党 長谷川たかこ議員

99. 9%遮蔽ができるということで、いわゆる安全になるのかなという感じはするのですけれども、是非この件を、保育園、幼稚園、小・中学校やられるかと思うのですけれども、そういう部分をしっかりとやる学校長から保護者の方にお伝えするようなことをすべきだと思うのですけれども、いかがでしょうか。

危機管理室長

砂場の測定につきましても、もちろん実施をすることと、それから、その結果につきましても、例えば基準値をオーバーしたことについてはお知らせをしていると。これについては使用を禁止して、その後、砂場の砂を入替えますということのご案内をしてきました。

そこで工事を行って、夏休み中にはそれが小・中学校については終了したということで、これはいわば個別通知をしなくても認識されているのかなと思っております。

一方で、ホームページの方では広報も含めてお知らせしているという状況でございます。

民主党 長谷川たかこ議員

やはり各園や学校側の方から保護者向けに通知をしないと、例えば突然敷地内に重機が入ってきてやり始めて、それを見た保護者が何をしているのだろうと思って聞いてみると、それを見た保護者が何をしているのだろうと思って聞いてみると、そこに放射性物質が含まれた砂を埋めているのだということを聞いたときに、やはりちょっと不安になったりする部分があるので、99. 9%遮蔽ができるということであるならば、しっかりと保護者、保護者に対して周知、お知らせをすることが必要だと思うのですが、その点についていかがでしょうか。

教育指導室長

長谷川委員の質問にお答えをいたします。

実際に砂の入替え作業等重機を入れて交換を行うといったことは主に夏休み中に既に行っているところもございますが、夏休み明けで保護者に対してきちんとその点、こういった形で既に処理をしていると、又は埋めているということについて周知をするように指導してまいりたいと思います。

保育課長

保育園につきましても、当然保護者の方に説明せずに突然工事というわけにはまいりませんので、事前に保護者の方に説明をした上で工事に入るような形をとりますので、安心していただけるような説明をしていきたいと考えております。

民主党 長谷川たかこ議員

是非お願いしたいと思います。

あと、0.25マイクロシーベルト以上出た箇所の、例えばそこに近い住区センターとかの雨どいとか側溝、以前もちょっとお話をさせていただきましたが、そういうところに放射性物質が濃縮される可能性があると思うのですが、その部分について今後測定をしていくことはございますでしょうか。

危機管理室長

施設数が多いことから、空間線量をはかるのに、8月の半ば、下旬までかかったということ。

この後の測定のポイントの選定については、今のところまだ検討中でございまして、どこをはかるとかということは、今のところまだ決めておりません。ひとまず1カ所ずつはかり終わって、それで基準値オーバーしたところについての対処を今続行中、こういう状況でございます。

民主党 長谷川たかこ議員

是非基準値の近いところの住区センターの雨どいとか側溝という部分も調べていただきたいと思うのです。

住区センターというのは、いろいろな方がいらつしやいますけれども、子どもなども多く入ったりしていますし、例えば側溝にたまっている落ち葉とか土に濃縮した放射性物質が検出されても、これはおかしくない状態だと思うので、是非その部分についての測定というのを早急にしていきたい。そして、もし基準値を超えているのであれば、そのごみの焼却をどうするのか、次なる手立てを考えていかなければいけないと思うので、そういう視点で早急に測定をしていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

危機管理室長

測定ポイント、ここまで大がかりにやっている自治体は他には多分ないと思いますけれども、いわゆるこの後の優先順位につきましては様々なご意見がありますので、どこが一番高そうだなとかということは、様々な方からお話もいただいています。

また、今後、文科省とか環境省とかといったところから、こういったところをはかっていくべきだといったようなことも根拠にしたいというところがあります。なぜかと言うと、今長谷川委員がおっしゃったようなと

ころをきめ細かくやっていくには、相当な時間がかかるものですから、それを順繰りやっていく計画もつくらなければいけないのだろうと思います。

そしてまた、先ほどおっしゃったように、廃棄物の関係についても非常に大きな課題で、まだ結論が出ていないという状況で、それを含めまして今後測定ポイントについては検討させていただきたいと思います。

民主党 長谷川たかこ議員

その0.25マイクロシーベルトが出たところの住区センターでいいと思うのです。その住区センターというのは児童館なども入っていて、子どもたちが多く出入りするので、そこは優先順位で言ったら凄く高いポイントだと思うのです。そこを是非役所の方で早急に測定していただきたいと思うのですが、全ての住区センターをやってくださいとかでなく、優先順位で言ったら0.25マイクロシーベルトが出ている値の近場の住区センターに絞り込んで、その雨どいとか側溝の測定をしていただきたいと思うのですが、その点についてはいかがでしょうか。

危機管理室長

優先順位をつけるときには、恐らく長谷川委員のおっしゃったような優先を加味していく必要はあるかと思えます。ところが、砂場の砂が0.25マイクロシーベルトを超えたところというのは、35カ所というのはかなりの数です。その周りの住区センターが何館あるのか、あるいはグラウンドの空間線量は出ていないけれども、公園はどうなのかといったところが、やはり出てくるだろうと思われまので、これについては測定ポイントにつきましては、今後検討させていただきたいと思います。

公明党 うすい浩一議員

まず、陳情の審査なので、先に意見を言いますけれども、受理番号16と18と19は、中身の今の報告を聞きますと、ほぼ大体網羅しているので、網羅しているものを掲げておくというのも何なので、区議会事務局長、これはどうなのでしょう、今後どのように対応していかれますか。

区議会事務局長

申合せの中では、当該年度において既に計画が決定している請願・陳情については、継続審査として凍結をしていくという申合せがあります。そういったことで、前回、この陳情者についての意向の確認をということで委員会からご指示があったものと私どもも認識しております。

ただ、連絡をしたところ、一つの陳情者が取下げの意向の話をしているということで、他についてはこの委員会の方に引き続き上げておくという状況になっております。ですから、このまま進めていきますと、本来の申合せでいけば、その部分については継続して凍結ということにはなっていくのだろうと考えております。

公明党 うすい浩一議員

今区議会事務局長からありましたとおり、うちとしては、17番以外は凍結継続でお願いしたいと思っております。ちょっと質問として3ページにいろいろと正しい情報を各種媒体を通じて積極的に発信をしていくという今後の方針が書かれているわけなのですが、前回あだち広報を使ってある程度の報告を第1回目として

いただいたのですが、これはホームページも当然大事ですけれども、紙媒体でシリーズ化して、その都度、この数値や区民に対しての情報を知りたいと思うのです。その情報を1回きりでなくて、シリーズ化した提供を今後ともすべきだと思っているのですが、その点についてのお考えはどうでしょうか。

危機管理室長

私どももうすい委員のおっしゃるとおりだと思っております、あだち広報の号外を出して以来、8月10日号につきましても、スペースを割きまして3分の1ぐらいの紙面を使って、放射能に関する基礎知識みたいなところも含めてお知らせをしているところでございます。

また、今回の8月25日号におきましても、先ほど出ております報告を差し上げました砂場の関係ですね。どういうふうに対処するといったようなことを掲載させていただきました。

また、更に9月10日号も同じぐらいのスペースをとって、砂場の値が上回ったところの一覧表も含めて掲載しようと考えているところでございます。

【参考】

平成 23 年 あだち広報 8 月 10 日号

(11) 2011年(平成23年)8月10日 **あだち広報** 第1617号

区の放射線測定

図1 放射線の種類とものを通り抜ける力

紙で遮られる
アルファ線

アルミニウムなどの薄い金属板で遮られる
ベータ線

鉛や厚い鉄の板で遮られる
ガンマ線・エックス線

区では、放射線への不安を解消するため、足立区内の放射線の測定を行っています。原発事故以前に比べると、放射線量の増加は認められますが、放射線を意識しないで生活できるレベルです。

砂場の砂の放射線検査を行い、測定値の単位をベクレルからシーベルトに換算した結果、指標値「毎時0.25マイクロシーベルト」以上(注1)となった砂場は、砂の入れ替えを行います。

(注1) 区が対策を取る目安の値。平常時の放射線管理基準「年間1ミリシーベルト(国際放射線防護委員会の勧告における年間線量限度)」から算出

◆放射線の基礎知識
Q1 放射線の測定器にはどのようなものがありますか？
また、どのような違いがありますか？
A1 シンチレーションサーベイメータとGMカウンタ

(ガイガーカウンタ)が多く使用されています。放射線には、アルファ線、ベータ線、ガンマ線などがあり、種類によって「ものを通り抜ける力」に違いがあります(図1)。シンチレーションサーベイメータは外部被ばくで注意すべきガンマ線を高い精度で測定します。区で行っている空間線量の測定には、シンチレーションサーベイメータを使用しています。GMカウンタは放射性物質の表面のベータ線とガンマ線を測定できますが、ガンマ線に対する感度が低く、測定値の誤差が大きくなる可能性があります。Q2 外部被ばくと内部被ばくとはどのようなものですか？
また、放射線の種類とどのような関係がありますか？
A2 「被ばく」とは、放射線に身体がさらされることです。身体の外から放射線が当たる場合を「外部被ばく」といいます。また、放射性物質を体内に取り込んだ場合を「内部被ばく」といい、大気中の放射性物質を吸い込む「吸入被ばく」と、食品や水を摂取することによる「経口被ばく」に分けられます。被ばく量は、外部被ばくと内部被ばくの合計で考えます。外部被ばくの場合、放射線のアルファ線やベータ線は小さな粒子であるため、外部から体に当たっても服や皮膚で遮られて体内に吸収されません。しかし、電磁波であるガンマ線は服や皮膚を通過するので注意が必要です。内部被ばくでは、体内に吸収された状態で体に影響を与えるため、アルファ線やベータ線にも気を付ける必要があります。

内容	問先
放射線による健康相談	独立行政法人放射線医学総合研究所(午前9時~午後5時) ☎043-290-4003
	中央本町保健総合センター ☎3880-5351
	竹の塚保健総合センター ☎3855-5082
	江北保健総合センター ☎3896-4004
	千住保健総合センター ☎3888-4277
東和保健総合センター ☎3606-4171	
Q&A、水・食品に関する放射線の影響	足立保健所生活衛生課生活衛生係 ☎3880-5374
測定方法	環境保全課調査係 ☎3880-5367
測定場所・測定日	保育園 保育課保育管理係 ☎3880-5872
	幼稚園 子ども家庭課子ども家庭係 ☎3880-5445
小・中学校	教育政策課庶務係 ☎3880-5961
公園	公園管理課公園管理係 ☎3880-5918

平成 23 年 あだち広報 8 月 25 日号

表4 放射線に関する問い合わせ先

内容	問先
放射線による健康相談	独立行政法人放射線医学総合研究所(午前9時~午後5時) ☎043-290-4003
	中央本町保健総合センター ☎3880-5351
	竹の塚保健総合センター ☎3855-5082
	江北保健総合センター ☎3896-4004
	千住保健総合センター ☎3888-4277
東和保健総合センター ☎3606-4171	
Q&A、水・食品に関する放射線の影響	足立保健所生活衛生課生活衛生係 ☎3880-5374
測定方法	環境保全課調査係 ☎3880-5367
測定場所・測定日	保育園 保育課保育管理係 ☎3880-5872
	幼稚園 子ども家庭課子ども家庭係 ☎3880-5445
小・中学校	教育政策課庶務係 ☎3880-5961
公園	公園管理課公園管理係 ☎3880-5918

◆砂場の放射性物質の測定結果と対策
区では、保育園、幼稚園、小・中学校および公園など各施設の屋外プールの水や砂場の放射性物質の検査を行いました。プールでは放射性物質は検出されませんでした。しかし、593カ所の砂場のうち35カ所での指標値である毎時0.25マイクロシーベルトを上回った放射性物質が検出されたため、8月10日から砂の入れ替えなどの対策を順次行っています。

◆食品や大気からの放射性物質の影響と対策
4月以降、放射性物質は水道水や大気中でほとんど検出されていません。

食品については、各都道府県が野菜や肉、水産品の放射性物質の検査を行っています。国が定めた暫定規制値を超えた場合は、主に県単位で出荷制限されています。暫定規制値を超えた牛肉が流通していたことが問題になりましたが、現在は出荷が制限されていて、全頭検査などにより安全な牛肉が市場に提供される体制がとられています。

今後は国や都道府県が中心となり、これから収穫期を迎える米なども含め、規制値を超えた食品が市場に出回らないように検査体制の強化を図っています。

問先表4 — いずれも —

第 1619 号		あだち広報		2011 年 (平成 23 年) 9 月 10 日		(10)																											
<h2 style="background-color: #0070C0; color: white; padding: 5px;">区の放射線指標値を超えた砂場の対策状況</h2>				<p>7月に区内の保育園、幼稚園、小・中学校および公園などの593カ所の砂場の放射性物質の測定を行ったところ、35カ所で区の指標値である0.25μSv/h (マイクロシーベルト/時)を上回る放射性物質が検出されました。これらの砂場については、砂の入れ替え工事を順次行っています(表1)。標準的な工事方法＝既存の砂を袋詰めした後、各施設の地中に埋設し、確認済みの新しい砂と入れ替える</p>																													
<p>表1 砂場の砂の入れ替え工事を行う施設 (各施設の砂場の空間線量計算値は、7月に測定した数値を基に計算)</p>																																	
施設区分	施設名	空間線量計算値(地表5cm、単位は μ Sv/h)	工事実施時期	問い合わせ先	施設区分	施設名	空間線量計算値(地表5cm、単位は μ Sv/h)	工事実施時期	問い合わせ先																								
小学校	青井小学校	0.426	8/10~24	学校施設課計画調整係 ☎3880-5965	保育園	青井保育園	0.337	9月上旬~中旬(予定)	保育課保育施設係 ☎3880-5888																								
	大谷田小学校	0.316				大谷田第二保育園	0.277																										
	興本小学校	0.285				上沼田保育園	0.275																										
	龜田小学校	0.370				弘道保育園	0.589																										
	栗原小学校	0.390				辰沼保育園	0.251																										
	千寿常東小学校	0.442				六木保育園	0.319																										
	舎人小学校	0.486			幼稚園	石鍋幼稚園	0.381	9月上旬~中旬(予定)	子ども家庭課子ども家庭係 ☎3880-5445																								
	中川北小学校	0.349				聖フランシスコ幼稚園(2カ所)	0.320/0.473																										
	中川小学校	0.277				聖和幼稚園	0.300																										
	中島根小学校	0.699				第一若草幼稚園	0.310																										
	長門小学校	0.628				若草専念寺幼稚園	0.331																										
	東測江小学校	0.312				公園	大谷田三丁目児童遊園			0.415	9月中旬~10月上旬(予定)	公園管理課公園管理係 ☎3880-5918																					
本木小学校	0.372	大谷田南公園	0.330																														
中学校	栗島中学校	0.452	下河原公園 ★	0.488																													
	千寿青葉中学校	0.261	神明東公園	0.400																													
	花畑中学校	0.275	東和四丁目児童遊園	0.305																													
	谷中学校	0.361	六木中央公園	0.300																													
<p>※砂の入れ替え工事が完了するまで、砂場は使用中止 ★…2カ所ある砂場のうち1カ所で指標値を超え、その砂場を廃止</p>																																	
<p>☑放射線量の調査(8/16~31の平日) 計測場所=区役所前中央公園(高さ地上から1m) 測定値=表2 問い合わせ先=環境保全課調査係 ☎3880-5367</p>				<p>表2 放射線量の測定値</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>日付</th> <th>16</th> <th>17</th> <th>18</th> <th>19</th> <th>22</th> <th>23</th> <th>24</th> <th>25</th> <th>26</th> <th>29</th> <th>30</th> <th>31</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>測定値(μSv/h)</td> <td>0.17</td> <td>0.17</td> <td>0.17</td> <td>0.18</td> <td>0.17</td> <td>0.16</td> <td>0.16</td> <td>0.16</td> <td>0.16</td> <td>0.16</td> <td>0.16</td> <td>0.15</td> </tr> </tbody> </table>				日付	16	17	18	19	22	23	24	25	26	29	30	31	測定値(μ Sv/h)	0.17	0.17	0.17	0.18	0.17	0.16	0.16	0.16	0.16	0.16	0.16	0.15
日付	16	17	18	19	22	23	24	25	26	29	30	31																					
測定値(μ Sv/h)	0.17	0.17	0.17	0.18	0.17	0.16	0.16	0.16	0.16	0.16	0.16	0.15																					

公明党 うすい浩一議員

努力していただいているのはよくわかるので、ですから今後区民が知りたいことを的確につかんで、それを、シリーズ化してできるだけやっていただきたいと要望しておきますので、よろしく願いいたします。

日本共産党 針谷みきお議員

前回の審議で、この陳情については、とりわけ17番の子どもたちを放射性被ばくから守るための陳情というところが最大の継続審議となった理由だろうと思うのです。

そこで、その具体的な事例は陳情内容の(3)の②のまた1というものですか、いわゆる幼稚園、保育園、小学校などの給食についての内部被曝への不安を取り除くために暫定基準を参考にするだけでなく、子どもの給食で使用する食材については、足立区独自の安全基準ルールをつくり万全策を講じて欲しいということだと思っておりますけれども、これについては、区はこのいわゆる対策とか、そこには一切、そのことについては触れていないのですが、そのことに対する対応というのはどのようにお考えなのでしょうか。

学務課長

前回の委員会でもご答弁申し上げたかと思いますが、学校給食、私ども学校給食担当してございますけれども、ここで使う食材につきましては、産地の確認を全てした後、給食に供している。なお7月6日以降は、この産地についても各校において公表しているということでございます。

日本共産党 針谷みきお議員

産地の、いわゆる公表は大事なことで、確かに一つの不安を取り除くということになるかと思うのですが、私、ここでちょっと提案したいのは、前回指摘をした板橋区が、例の茶摘みの体験授業で茶葉の中に放射性セシウムがあったということで、その後、板橋区は何をしたかと言うと、板橋区内で栽培された野菜については検査をして、そして放射性物質が不検出であったというのを公表しているというのが1点だろうと思うのです。

もう一つは、これは渋谷区ですけれども、給食食材の放射線量の測定結果ということで、これは三つの保育園、三つの小学校でサンプル抽出をやってセシウム 134、137、ヨウ素 131 の検出をして不検出ということになったのですけれども、そういう一応努力をしたと。

多分私は、この陳情者の人たちは、食材全てを検査するようにとか、測定するようにとか言っているわけではなくて、安全基準のルールをつくり万全の策を講じてほしいという言い方をしているので、必ずしも全量検査という必要は、私もないかなと思っているのですね。

しかも、産地が明確になっているところと言えば、心配ないところも多数あるのですけれども、ただ前回みたいな牛肉のああいうあれが出てしまうと、区民には心配だというのが広がってしまうと思うので、私はこれはこういう形で渋谷区のような努力をすべきではないかと思っているのですけれども、それについては、前回の答弁からすると必要ないという答弁になってしまうのかもしれないのですけれども、ただ他区がやっていて、足立区が放射線量の測定をしている地域が一番多いということになるならば、この程度をきちんとやっても区民に対して評価が高くなるだけであって、断る理由は私はないかなと思っているのですが再度どうでしょうか。

生活衛生課長

食につきましては、産地の方できちんと継続をして、サンプリングではございますけれども、今回牛肉等で問題はございましたけれども、それにつきましても発覚してからは、それを広がらないような形で対策をとっておりますので、そういったような産地での規制ということで、私ども十分かなと考えております。

日本共産党 針谷みきお議員

2 ページにも報告資料がありますように、産地で大丈夫だという話というのは、このいわゆる稲わらを放置していたという、これは農家の責任でしょうけれども、こういう事例があって、これが崩れてしまったのですね。ですから、そういう議論では私はまずいと、それは区民には納得できないと思うので、やはり私はそうしょっちゅうやれと言っているわけではなくて、実際不安がある区民に対して、区の姿勢として、プールの水だって最初そうでしょう。金町浄水場の水がきれいになっているのだから必要ないのだと、必要ないと思うけれども、しかしあのときには調査をすると態度を変えたわけですから、その点については、今みたいな答弁はいかなものかなと思うので、危機管理室長、もう一度お願いします。

危機管理室長

食に関しては、これはいわば体内被曝の問題かと思えます。その体内被曝がどのくらいまでが健康に影響があるのか、ないのかといったところが議論のスタート点になければいけないと思えます。

その意味では、農水省とかは何ベクレル堆肥にあったらどうしようということであって、供給の更に前の生

産側の視点ですね。これは、やはりどのくらい摂取したらといったところの根拠を調べ、基準を定めるなら基準を定めなければいけないわけですが、空間線量のように、国際放射線防護委員会の1ミリ基準といったものが、食品の世界には明確なものが余りないということがあります。ですから、そういったものを待ちながら、もし基準化するのであれば、それを調査研究してからとなるのかなと思っております。

日本共産党 針谷みきお議員

これは答弁を求めませんけれども、渋谷区がそのように実際にサンプル抽出をやって、それで不検出となっているわけだから、これはそうべらぼうな時間と費用がかかる話ではなくて、実際に足立区民のお子さんに一つの安心を与えるデータとしてこういうことをやっていくということは、是非検討してしてもらいたい。そうすることによって、この陳情者が出している不安とか、安全基準ルールをつくるというところまでいかなくても、それは今の答弁でも国の対策なり都道府県の対策なりで出てくる問題かもしれないので、私は是非そのような対策をとって欲しいなど。

逆に言うと、この対策が講じられない間は希望するもののお弁当、水筒等の申出に柔軟な対応をするという、こっちをやられてしまうと、逆に足立区の子どもたちは大変な今の経済状況のもとで、ネグレクトがあったりいろいろあって、学校給食で栄養が担保されているという実態がある中で、こういうことに発展をすること自体は、私は逆に避けた方がいいと思うので、この陳情者とちょっとお話をしたときにも、私はこれはやめた方がいいよと、この運動はやめた方がいいよという話もしてあります。ちょっと理解していただいているかなと思っておりますけれども、そういうふうに関心させないためにも、これは対策をとった方がいいと。

そうでないと、足立区内の子どもたちの現状から考えると、いろいろな歪みとか格差が生まれると思いますので、これについては今すぐあれしなくていいですから、是非検討していただきたいということを要望しておきたいと思っております。

[委員長]日本共産党 さとう純子議員

他に質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

質疑なしと認めます。

次に、各会派の意見をお願いいたします。

自由民主党 金田正議員

自民党としては、今後、国から新しい基準等が示される見通しもあるということもありますし、これからもう少し議論の中から陳情者の願意、そしてこの進捗状況、いろいろと進んでいることは十分わかっていますので、その辺をもう少し見極めていきたいと思っておりますので、今回は継続ということで結構です。

公明党 うすい浩一議員

17番の内容についてはもう少し研究して前に進めていきたいという思いもあるものですから、これについて

はとにかく継続ということで、他については、とりあえず正副委員長で調整していただいて、16、18、19については大体概要を果たしていますので、打合せの中で凍結継続ということで、次に議論という形で発表していただければありがたいと思いますので、今回は継続ということでよろしくお願いします。

日本共産党 針谷みきお議員

今議論したように継続で結構ですが、いろいろな、前回は我々DVDまでもらって、私も全部見ましたけれども、やはり区民の不安というのは非常にある意味針小棒大に、ああいうビデオを見ると凄く大きなデータをまた公表しているわけですね。零点でなくて、1. 47 マイクロシーベルト、そういったデータが飛び交ってしまうような状況はいかかなものかなとは思うのですけれども、いずれにしても最大限我々としては区民の不安を取り除く、そして子どもたちの安心、そして健康、命を守るという立場で努力をしていかなければいけないと思いますので、引き続き努力していただくということで、継続で結構です。

民主党 長谷川たかこ議員

区民の不安を解消するための手立てをこれからも区として積極的に進めていただきたいと思いますし、このことに関してはもっと議論をしていくべきだと思っておりますので、継続でお願いいたします。

みんなの党 浅古みつひさ議員

大体内容的にはどの陳情も、本質的には同じようなことだと私たちも理解しております。基本的に結構でございますが、特に受理番号17番の陳情内容、①の3番等にも書いてありますけれども、足立区がやっている方向性はある程度他区と比較をした中では一生懸命やっていたという評価の一方、これを継続してやっていただくということが、放射線というものの性質上必要なのかなというところで採択にできるような形で、私たち将来的には考えていきたいと考えております。今回は継続で結構です。

[委員長]日本共産党 さとう純子議員

本陳情の凍結に関わる申合せの取扱いについては、次回までに正副委員長で協議してまいりたいと思いますので、本日は継続審査とすることにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

それでは継続審査と決定いたします。